

2010年8月期業績 及び2011年8月期業績見通し

大西 秀亞

株式会社ファーストリテイリング
グループ執行役員 CFO

1

大西です。

私からは、2010年8月期業績、及び
2011年8月期業績見通しについてご説明します。

I. 2010年8月期決算概要	P3	～	P16
II. 2011年8月期業績予想	P17	～	P27
III. ご参考資料	P28	～	P31

【資料文中のグループ事業の表示について】

各グループ事業の構成は、以下のとおりです。

(2011年8月期以降)

国内ユニクロ事業： 株式会社ユニクロ(靴事業含む)の数値が表示されています。

海外ユニクロ事業： 日本以外のユニクロ事業が含まれています。

グローバルブランド事業： セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、ジューユー事業、キャビン事業が含まれています。

(2010年8月期まで)

国内ユニクロ事業： 日本で展開するユニクロ事業の数値が表示されています。

海外ユニクロ事業： 日本以外のユニクロ事業が含まれています。

国内関連事業： ジューユー事業、靴事業、キャビン事業が含まれています。

グローバルブランド事業： セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業が含まれています。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

【連結】 2010年8月期実績

増収増益を達成

売上高 : 8,148億円 (前期比 +18.9%)

営業利益 : 1,323億円 (前期比 +21.9%)

単位: 億円

	2009年8月期		2010年8月期		
	通期実績	直近予想 (7/8修正)	通期実績	前期比	直近予想比
売上高 (売上比)	6,850 100.0%	8,150 100.0%	8,148 100.0%	+18.9%	▲0.0%
売上総利益 (売上比)	3,415 49.9%	4,200 51.5%	4,208 51.7%	+23.2% +1.8p	+0.2% +0.2p
販管費 (売上比)	2,328 34.0%	2,870 35.2%	2,885 35.4%	+23.9% +1.4p	+0.5% +0.2p
営業利益 (売上比)	1,086 15.9%	1,330 16.3%	1,323 16.2%	+21.9% +0.3p	▲0.5% ▲0.1p
経常利益 (売上比)	1,013 14.8%	1,270 15.6%	1,237 15.2%	+22.2% +0.4p	▲2.6% ▲0.4p
当期純利益 (売上比)	497 7.3%	675 8.3%	616 7.6%	+23.9% +0.3p	▲8.6% ▲0.7p

3

まず、2010年8月期の連結業績についてご説明します。

通期の売上高は8,148億円、前期比18.9%増、
営業利益1,323億円、前期比21.9%増、
経常利益1,237億円、前期比22.2%増と
増収増益を達成いたしました。

次のスライドでその要因をご説明します。

【連結】2010年8月期増収増益の要因

売上高 8,148億円 (前期比 +18.9%)

- 国内ユニクロ事業 +673億円 ○ 海外ユニクロ事業 +350億円
- グローバルブランド事業 +342億円 ○ 国内関連事業 ▲64億円

売上高総利益率 51.7% (前期比 +1.8p)

- 国内ユニクロ事業での改善 +1.4p

売上高販管費比率 35.4% (前期比 +1.4p)

- 国内ユニクロ事業での上昇 +0.5p
- 販管費比率の高い海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業の拡大

営業利益率 16.2% (前期比 +0.3p)

経常利益率 15.2% (前期比 +0.4p)

- 円高による為替差損の発生 ▲75億円

4

売上高が1,297億円増収となった内訳は、国内ユニクロ事業が673億円、海外ユニクロ事業が350億円、2009年8月期の第3四半期から連結を開始したセオリー事業によりグローバルブランド事業が342億円の増収となったことによります。なお、国内関連事業につきましては、フットパークの閉店の影響などにより、64億円の減収となっております。

売上高総利益率は51.7%と、前期比1.8ポイント改善いたしました。これは、国内ユニクロ事業において、粗利益率が1.4ポイント改善したことが要因です。

販管費は前期比で556億円増えており、販管費比率は1.4ポイント上昇いたしました。これは、国内ユニクロ事業で販管費比率が0.5ポイント上昇したこと、比較的に販管費比率が高い海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業の構成比が高まったことが要因です。

これらの結果、営業利益は1,323億円、前期比21.9%増となり、営業利益率は16.2%と前期比で0.3ポイント改善いたしました。

また、経常利益につきましては1,237億円、前期比22.2%増、経常利益率は15.2%と、前期比で0.4ポイント改善いたしました。

営業外損失として、円高に伴い為替差損が75億円発生しております。これは海外子会社向け貸付金にかかる評価損が主な内訳となっております。

単位：億円

		2009年8月期	2010年8月期			
		通期実績	直近予想 (7/8修正)	通期実績	前期比	直近予想比
国内ユニクロ事業	売上高	5,381	6,080	6,055	+12.5%	▲0.4%
	営業損益 (売上比)	1,107 20.6%	1,300 21.4%	1,295 21.4%	+17.0% +0.8p	▲0.3% +0.0p
海外ユニクロ事業	売上高	377	730	727	+92.6%	▲0.3%
	営業損益 (売上比)	16 4.3%	65 8.9%	63 8.7%	+293.0% +4.4p	▲2.1% ▲0.2p
国内関連事業	売上高	515	470	450	▲12.5%	▲4.1%
	営業損益 (売上比)	▲5 -	▲7 -	▲15 -	- -	- -
グローバルブランド事業	売上高	555	840	898	+61.6%	+7.0%
	営業損益 (売上比)	36 6.6%	65 7.7%	74 8.3%	+104.0% +1.7p	+15.1% +0.6p

こちらのスライドでは、各グループ事業別の売上高、営業利益を示しております。

二桁増収増益を達成

単位：億円

	2009年8月期		2010年8月期		
	通期実績	直近予想 (7/8修正)	通期実績	前期比	直近予想比
売上高 (売上比)	5,381 100.0%	6,080 100.0%	6,055 100.0%	+12.5%	▲0.4%
売上総利益 (売上比)	2,590 48.1%	3,015 49.6%	2,995 49.5%	+15.6% (+1.4p)	▲0.7% (▲0.1p)
販管費 (売上比)	1,482 27.6%	1,715 28.2%	1,699 28.1%	+14.6% (+0.5p)	▲0.9% (▲0.1p)
営業利益 (売上比)	1,107 20.6%	1,300 21.4%	1,295 21.4%	+17.0% (+0.8p)	▲0.3% (+0.0p)

6

まず、国内ユニクロ事業ですが、2010年8月期通期の売上高は6,055億円、前期比12.5%増、営業利益は1,295億円、同17.0%増と二桁の増収増益を達成いたしました。

項目ごとの説明につきましては、次のスライドでさせていただきます。

2010年8月期：売上高 6,055億円（前期比 +12.5%）

○ ユニクロ直営店 2010年8月末 788店※ 前年同期比 +38店舗増)

○ 下期(3月～8月)の 既存店売上高 ▲6.4% (客数 ▲2.2%、客単価 ▲4.3%)

客数減の背景 ⇒ 春先の低温、マーケティングの失敗による春物販売苦戦
8月の猛暑による秋物の立ち上がりの遅れ

客単価減の背景 ⇒ 一品単価の低いインナー商品(サラファイン、
シルキードライ)、およびレギンスなどの売上構成比
が高まったため

前年比増減率		2010年8月期			2010年
		上期	下期	通期	9月
既存店計	売上高	+13.1%	▲6.4%	+4.7%	▲24.7%
	客数	+11.7%	▲2.2%	+5.2%	▲14.9%
	客単価	+1.3%	▲4.3%	▲0.5%	▲11.4%

※ FC店 20店舗を除く

7

まず通期の売上高は12.5%の増収となりました。

これは、既存店売上高が4.7%の増となり、直営店が前期末比で38店舗増加したことによります。

既存店売上高は、上期では13.1%増と高い増収率を達成することができましたが、3月から8月までの下期では、前年同期比マイナス6.4%となっております。その内訳としては、客数がマイナス2.2%、客単価がマイナス4.3%となっております。

下期の減収は、春先の低温やマーケティングの失敗による春物販売の苦戦、8月の猛暑による秋物の立ち上がりの遅れが大きく影響したと考えております。

客単価のマイナス4.3%は主に一品単価の低いサラファイン、シルキードライといったインナー商品、およびレギンスなどの売上構成比が高まったことが要因となっております。

なお、9月の既存店売上高は既にお伝えしている通り、前年比でマイナス24.7%と前年を大きく割り込んでおりますが、これは猛暑による秋物販売低迷の影響が大きかったと考えております。

2010年8月期: 売上高総利益率 49.5% (前期比 +1.4p)

上期 粗利益率改善

- ・ヒートテックなど秋冬販売の好調
- ・売上の計画上ぶれに伴う円高メリットの影響

下期 粗利益率低下

- ・夏物処分、秋物立ち上がりの遅れが影響

	2009年8月期	2010年8月期	
			前期比
通期	48.1%	49.5%	+1.4p
上期	48.5%	50.8%	+2.3p
下期	47.7%	47.5%	▲0.2p

8

次に国内ユニクロ事業の売上高総利益率ですが、前期比で1.4ポイント改善しました。

上期は、ヒートテックをはじめとした秋冬物の販売が好調に推移したことで、粗利益率は大幅に改善いたしました。

また、売上が当初の計画から大きく上ぶれたことにより、第2四半期で、一部の商品について為替をスポットで仕入れたことによる円高メリットが発生し、これも粗利益率改善に寄与しております。

下期は、8月に夏物処分を進めたことや、猛暑による秋物の立ち上がりの遅れが影響し、粗利益率は前期比で低下いたしました。

【国内ユニクロ事業】販管費

2010年8月期：売上高販管費率 28.1% (前期比+0.5p)

下期は経費比率が上昇

・経費削減を16億円実施したが、去年の下期が売上好調で、
効率が非常に良かったため、経費比率は上昇

単位：億円

	2009年8月期		2010年8月期		増減額	
	実績	(売上比)	実績	(売上比)		(売上比)
販管費	1,482	27.6%	1,699	28.1%	+216	+0.5p
内 人件費	518	9.6%	605	10.0%	+86	+0.4p
内 広告宣伝費	239	4.5%	279	4.6%	+39	+0.1p
内 賃借料	400	7.4%	449	7.4%	+49	+0.0p
内 減価償却費	30	0.6%	41	0.7%	+10	+0.1p
内 その他	293	5.4%	323	5.3%	+30	▲0.1p

9

国内ユニクロ事業の販管費は1,699億円、前期比で216億円増となりました。

下期は、広告宣伝費などを中心に約16億円の経費削減を実施いたしました。

しかし去年の下期が売上好調で、効率が非常に良かったため、
この下期の経費比率は前年同期比で上昇しております。

通期の経費比率は28.1%と過去の水準と比べると通常ベースにあると
考えております。

営業利益は前期比約4倍増

アジア 既存店売上高二桁増により大幅な増益

(アジア 店舗数 2009/8末 76店舗 ⇒ 2010/8末 118店舗)

中国・香港 上海のグローバル旗艦店(上海 南京西路店)の売上は好調
下期も既存店売上高の二桁増が続き、大幅増益

韓国 下期も既存店売上高の二桁増、粗利率改善により大幅増益

シンガポール 好調な売上トレンド続き、増益を達成

単位: 億円

		2009年8月期		2010年8月期		
		通期実績	直近予想 (7/8修正)	通期実績	前期比	
					前期比	直近予想比
海外ユニクロ事業	売上高	377	730	727	+92.6%	▲0.3%
	営業損益	16	65	63	+293.0%	▲2.1%
	(売上比)	4.3%	8.9%	8.7%	+4.4p	▲0.2p

※ 中国のユニクロ事業は決算期変更により、2010年8月期は2009年7月～2010年8月(14ヶ月)を連結対象期間としています。 10

次に海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

売上高は727億円、前期に比べて約2倍、営業利益は63億円と前期比約4倍増となりました。

まずアジアですが、下期も各国で既存店売上高の二桁増が続くなど、売上トレンドは好調で、営業利益は大幅な増益となっております。

中国・香港では、5月に上海でオープンしたグローバル旗艦店の売上が好調に推移したこと、下期の既存店売上高の二桁増が続いたことから、大幅増益となりました。

韓国についても、下期の既存店売上高の二桁増が続き、粗利益率も改善したことから、大幅増益を達成しております。

シンガポールも好調な売上トレンドが続き、増益を達成いたしました。

欧米 NY旗艦店の好調、英国の赤字幅縮小

(欧米 店舗数 2009/8末 16店舗 ⇒ 2010/8末 18店舗)

- 米国 ソーホーのNYグローバル旗艦店の売上高は4割増収と好調で大幅増益
ニューヨーク5番街物件の家賃負担が発生
- 英国 下期の売上が計画未達となり若干の営業赤字
- フランス パリのグローバル旗艦店(パリ オペラ店)の売上好調続く、営業黒字を達成
- ロシア 4月に1号店をオープン、売上は順調だがオープンコストにより営業赤字



パリ オペラ店(2009年10月オープン)



上海 南京西路店(2010年5月オープン)

11

続いて欧米ですが、ニューヨーク旗艦店の売上好調なこと、英国の赤字幅が縮小したことなどにより、全体の赤字幅は計画通り、大幅に縮小いたしました。

米国では、ソーホーのニューヨーク グローバル旗艦店の売上高が前期比4割増と極めて好調で、大幅増益となっております。ただ、5月に契約を締結したニューヨーク5番街物件の家賃負担が発生したことにより、米国ユニクロ事業としては赤字となりました。

英国では、通期での黒字を目指しておりましたが、下期の売上げが計画未達となったことから、若干の営業赤字となりました。

フランスでは、2009年10月にオープンしたグローバル旗艦店「パリ オペラ店」の売上好調が続いており、黒字を達成しております。

なお、ロシアは、2010年4月に1号店をモスクワにオープンし、順調な売上を達成しております。しかし、オープンコストによりロシア事業としては営業赤字となっております。

ジーユー事業は大幅増益

ジーユー事業 業績は計画通り大幅な増収増益

期末店舗数は115店舗まで拡大

靴事業

赤字幅拡大

4月に㈱ユニクロへ統合、9月には店舗名をCANDISHIに統一

キャビン事業 2011年初頭目途にブランド休止を決定

既存店売上高は減収が続く、赤字幅が拡大

9月に㈱リンク・セオリー・ジャパンと合併

単位: 億円

		2009年8月期		2010年8月期		
		通期実績	直近予想 (7/8修正)	通期実績	前期比	
					前期比	直近予想比
国内関連事業	売上高	515	470	450	▲12.5%	▲4.1%
	営業損益 (売上比)	▲5	▲7	▲15	-	-

12

次に国内関連事業ですが、ジーユー事業が大幅な増益となったものの、靴事業、キャビン事業の赤字幅が拡大したことから、営業赤字は15億円となりました。

ジーユー事業は、既存店売上高の二桁増、出店増により売上高は計画通りに拡大し、効率も改善したことで大幅増益となりました。なお、8月末の店舗数は115店舗まで拡大しております。

靴事業については、上期ではフットパークを189店舗閉店し、事業を縮小いたしました。下期では既存店売上高の減収が続く、赤字幅が計画以上に拡大しました。なお、靴事業は、4月1日より㈱ユニクロへ統合し、9月には店舗名をCANDISHIに統一いたしました。

キャビンの業績は既存店売上高の減収が続く、赤字幅が拡大いたしました。なお、お伝えしている通り、9月1日付で㈱リンク・セオリー・ジャパンと合併し、現在運営している各ブランドは来年初頭を目途に休止することを決定しております。

セオリー事業は大幅な増益

セオリー事業 大幅増益を達成

米国：既存店売上高(直営店)の二桁増収、好調な卸売部門により大幅増益
決算期変更に伴い、14ヶ月分の業績を連結

日本：売上は計画通り、円高による調達コスト低減により採算が改善、大幅増益

コントワー・デ・コトニエ事業 計画通りの業績

既存店売上高は若干の増収、営業利益は計画とおりの横ばい

プリンセス タム・タム事業 卸売販売の事業規模を縮小

卸売販売の縮小に伴い減収減益

単位：億円

		2009年8月期		2010年8月期		
		通期実績	直近予想 (7/8修正)	通期実績	前期比	直近予想比
グローバルブランド事業	売上高	555	840	898	+61.6%	+7.0%
	営業損益 (売上比)	36 6.6%	65 7.7%	74 8.3%	+104.0% +1.7p	+15.1% +0.6p

※ 米国におけるセオリー事業は決算期変更により、2010年8月期は2009年7月～2010年8月(14ヶ月)を連結対象期間としております。2ヶ月間の影響額は、売上高で約40億円、営業利益で約3億円です。

13

次にグローバルブランド事業ですが、2009年3月より新規に連結したセオリー事業の業績好調により、売上高は898億円、前期比61.6%増、営業利益は74億円、同104.0%増と大幅な増収増益となりました。

セオリー事業ですが、日米ともに大幅な増益を達成いたしました。米国におけるセオリー事業では、既存店売上高の2桁増、百貨店への卸売部門も好調で、大幅な増益を達成いたしました。日本のセオリー事業も、計画通りに売上高が推移したことに加え、円高による調達コスト低減により採算が改善、大幅増益となりました。

なお、米国セオリーは、決算期を従来の6月から8月に変更したことに伴い、2010年8月期では14ヶ月の業績を連結しております。予想数値にはその影響額が含まれておりませんでしたので、売上高で約40億円、営業利益で約3億円、計画に比べて実績は上ぶれております。

コントワー・デ・コトニエ事業も順調に推移しており、既存店増収率は若干のプラスとなっております。また、営業利益も計画通り横ばいとなっております。

プリンセス タム・タム事業では卸売販売の事業規模を縮小したことから、減収減益となっております。

特別損失 ▲78億円

減損損失 ▲44億円

(のれん減損 30億円: キャビン事業20億円、PTT事業10億円)

(店舗資産減損 14億円: 主にキャビン事業店舗によるもの)

事業整理損失引当金繰入額 ▲ 9億円

(キャビン事業の閉店損失関連など)

固定資産除却損・店舗閉店損失 ▲12億円

(主に国内ユニクロ事業の店舗閉店に伴うもの)

なお、こちらのスライドでは2010年8月期の特別損失78億円についてご説明いたします。

主な内訳としては、減損損失が44億円発生しております。内訳としては、のれんの減損約30億円と、店舗資産の減損14億円となっております。

なお、のれんの減損につきましては、キャビン事業にかかわるものが20億円、プリンセス タム・タム事業にかかわるものが10億円となっております。

店舗資産の減損につきましては、キャビン事業の店舗にかかわるものが主なものとなっております。

また、事業整理損失引当金繰入額が9億円発生しております。これは、事業の休止を決定したキャビン事業によるものです。

これに加え、国内ユニクロ事業における店舗閉店にかかわる固定資産除却損と店舗閉店損12億円を計上しております。

単位：億円

	2009年8月末	2010年8月末	増 減
総資産	4,632	5,072	+440
流動資産	2,981	3,456	+474
固定資産	1,651	1,616	▲34
負債	2,018	2,193	+174
純資産	2,614	2,879	+265

15

次に連結のバランスシートのご説明をさせていただきます。

2010年8月末では、流動資産が前期比で474億円増加し、固定資産は34億円減少した結果、全体の総資産は440億円増加して5,072億円となりました。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

【連結】B/Sのポイント (2009年8月末比較)

現金・預金及び有価証券の増加 +321億円 (1,697億円 ⇒ 2,019億円)

【国内ユニクロ事業】営業CFの増加

たな卸資産の減少 ▲5億円 (745億円 ⇒ 740億円)

【国内ユニクロ事業】8月末残高 511億円 (09/8月末比) +20億円
(前期末比)店舗数の増加・大型化による増加 +20億円

有形固定資産の増加 +41億円 (459億円 ⇒ 501億円)

【国内ユニクロ事業】出店に伴う増加 +53億円

為替予約勘定(負債)の増加 +173億円 (408億円 ⇒ 582億円)

【国内ユニクロ事業】円高の進行に伴うもの。損益への影響は無し

16

流動資産ですが、現預金及び有価証券の合計額は2,019億円と、前期末比で321億円増加いたしました。これは、主に国内ユニクロ事業における営業キャッシュフローの増加によるものです。

たな卸資産は740億円と、前期末比では5億円減少しております。これは、フットパークの閉店による影響などによります。国内ユニクロ事業の8月末の在庫は511億円と前期比では20億円増加しております。これは、店舗数の増加、大型化による影響です。

有形固定資産は、前期末比で41億円増加しております。出店に伴い、国内ユニクロ事業で53億円増加したことが主な要因です。

なお、為替予約勘定が前期末比173億円増加しております。これは円高の進行に伴うもので、ヘッジ会計を適用していることから損益への影響はございません。

通期で増収減益を予想

	2010年8月期		2011年8月期	
	通期実績		通期予想	前期比
売上高 (売上比)	8,148 100.0%		8,560 100.0%	+5.1%
売上総利益 (売上比)	4,208 51.7%		4,400 51.4%	+4.5% ▲0.3p
販管費 (売上比)	2,885 35.4%		3,265 38.1%	+13.2% +2.7p
営業利益 (売上比)	1,323 16.2%		1,135 13.3%	▲14.3% ▲2.9p
経常利益 (売上比)	1,237 15.2%		1,085 12.7%	▲12.3% ▲2.5p
当期純利益 (売上比)	616 7.6%		510 6.0%	▲17.3% ▲1.6p

単位: 億円

17

ここからは、2011年8月期の業績予想についてご説明いたします。
 売上高は8,560億円、前期比5.1%増、
 営業利益は1,135億円、前期比14.3%減、
 経常利益は1,085億円、前期比12.3%減、
 当期純利益は510億円、前期比17.3%減を予想しております。

2011年8月期 グループ事業別 業績予想

単位：億円

		2010年8月期	2011年8月期	
		通期実績	通期予想	前期比
国内ユニクロ事業	売上高	6,151	6,280	+2.1%
	営業損益 (売上比)	1,277 20.8%	1,055 16.8%	▲17.4% ▲4.0p
海外ユニクロ事業	売上高	727	1,000	+37.4%
	営業損益 (売上比)	63 8.7%	85 8.5%	+33.2% ▲0.2p
グローバルブランド事業	売上高	1,252	1,250	▲0.2%
	営業損益 (売上比)	78 6.3%	85 6.8%	+8.3% +0.5p

※ 2010年8月期実績については新カテゴリーに組替した数値を表示しております。

※ 各グループ事業の構成

国内ユニクロ事業：株式会社ユニクロ(靴事業含む)の数値が表示されています

海外ユニクロ事業：日本以外で展開しているユニクロ事業

グローバルブランド事業：セオリー事業、コントワ・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、
ジュー事業、キャビン事業

18

通期のグループ事業別業績につきましてはご覧のとおりです。
なお、こちらのスライドから、2010年8月期の実績についても、新カテゴリーに組み替えた数値を表示しております。

各事業カテゴリーに含まれる事業について

2010年8月期まで

2011年8月期以降

2010年8月期まで		2011年8月期以降	
	含まれる事業		含まれる事業
国内ユニクロ事業	日本で展開するユニクロ事業	国内ユニクロ事業	日本で展開するユニクロ事業 靴事業
海外ユニクロ事業	海外で展開するユニクロ事業	海外ユニクロ事業	海外で展開するユニクロ事業
国内関連事業	ジーユー事業	グローバルブランド事業	セオリー事業
	靴事業		コントワー・デ・コトニエ事業
	キャビン事業		プリンセス タム・タム事業
セオリー事業	ジーユー事業		
グローバルブランド事業	コントワー・デ・コトニエ事業		
	プリンセス タム・タム事業		

※ (株)キャビンは2010年9月1日よりリンク・セオリー・ジャパンに合併。2011年8月期以降におけるキャビン事業の業績は、グローバルブランド事業に含めております。

※ 靴事業は2010年4月1日より(株)ユニクロに合併

新カテゴリーでは、国内ユニクロ事業に靴事業が加わり、グローバルブランド事業にはジーユー事業が加わります。

会計処理の変更について

物流費計上基準の統一

商品倉庫料、商品倉庫～店舗間の物流費について、原価計上している事業と販管費計上している事業に分かれていたが、販管費計上に統一

連結全体 : 原価▲195億円 販管費+195億円
 内数)国内ユニクロ事業 : 原価▲185億円 販管費+185億円

固定資産の減価償却費計上基準の統一

グループ事業において適用する固定資産の減価償却費計上基準を統一

連結全体 : 販管費増+5億円
 内数)国内ユニクロ事業 : 販管費増+5億円

資産除去債務

資産除去債務会計基準の導入に伴うもの

連結全体 : 販管費増+7億円
 内数)国内ユニクロ事業 : 販管費増+5億円

2011年8月期において、重要な会計処理の変更を3点しておりますのでご説明いたします。

まず、グループで適用する物流費の計上基準を統一いたします。従来、グループ会社ごとに、商品倉庫料および商品倉庫と店舗間の物流費については、原価計上している事業と販管費計上している事業に分かれておりましたが、2011年8月期からすべて販管費処理と統一いたします。

その影響によって連結ベースでは原価が195億円減少し、同額の195億円が販管費で増加する見込みです。

なお、そのうち185億円は国内ユニクロ事業によるものです。

固定資産の減価償却費につきましても、各グループ事業において適用する計上基準を統一いたします。

この影響で、グループ全体では販管費が約5億円増加する見込みです。

なお、これはほとんどが国内ユニクロ事業によるものです。

なお、この2点の会計処理の変更は、グローバルワン経営体制構築の一環で、グループ各事業が同一の会計処理をすることを目指したものです。また、グローバルワン経営体制推進のため、この9月1日にはグループ統一の会計システムの導入を開始しております。

最後に、資産除去債務を2011年8月期から認識し償却を開始いたします。

これは資産除去債務会計基準が導入されることに伴うもので、

2011年8月期ではグループ全体で約7億円、国内ユニクロ事業では約5億円、販管費が増加する見込みです。

増収減益の見込み

単位：億円

	2010年8月期		2011年8月期	
	通期実績		通期予想	前期比
売上高 (売上比)	6,151 100.0%		6,280 100.0%	+2.1%
売上総利益 (売上比)	3,026 49.2%		3,075 49.0%	+1.6% ▲0.2p
販管費 (売上比)	1,749 28.4%		2,020 32.2%	+15.5% +3.8p
営業利益 (売上比)	1,277 20.8%		1,055 16.8%	▲17.4% ▲4.0p

- ※ 2010年8月期実績については新カテゴリーに組替した数値を表示しております。
- ※ 株式会社ユニクロ(靴事業含む)の数値が表示されています。
- ※ 会計基準変更により、売上高総利益、販管費がそれぞれ前年比で+185億円となっております。詳細は「会計基準の変更について」ページ(P20)をご参照ください。

21

ここからは事業別の業績予想についてご説明いたします。

まず、国内ユニクロ事業ですが、売上高は6,280億円、前期比2.1%増、営業利益は1,055億円、前期比17.4%減と、増収減益を見込んでおります。

【国内ユニクロ事業】業績予想の前提

	2010年8月期 実績	2011年8月期予想		2011年8月期予想	
		旧基準	前期比	新基準	前期比
売上高	6,151 億円			6,280 億円	+2.1%
既存店伸び率(通期) (ユニクロのみ)	+4.7%			▲4.7%	▲9.4p
上期	+13.1%			▲9.8%	▲22.9p
下期	▲6.4%			+3.0%	+9.4p
売上高総利益率(通期)	49.2%	46.0%	▲3.2p	49.0%	▲0.2p
上期	50.4%	46.2%	▲4.2p	49.0%	▲1.4p
下期	47.5%	45.8%	▲1.7p	48.9%	+1.4p
売上高販管費率(通期)	28.4%	29.2%	+0.8p	32.2%	+3.8p
上期	25.2%	27.5%	+2.3p	30.4%	+5.2p
下期	33.3%	31.4%	▲1.9p	34.5%	+1.2p

※ 2010年8月期実績については新カテゴリー(株ユニクロと靴事業)に組替した数値を表示しております。

※ 既存店売上高の伸び率はユニクロのみ表示(靴事業除く)。

※ 旧基準:会計処理変更前の数値

22

国内ユニクロ事業の業績予想の前提はこちらの一覧表に表示しております。

靴事業を除いた国内ユニクロ事業の既存店売上高の伸び率は、上期マイナス9.8%、下期プラス3.0%、通期ではマイナス4.7%を予想しております。

売上高総利益率は、旧基準と比較すると、上期は前年同期比4.2ポイントの低下、下期は1.7ポイント低下、通期では3.2ポイントの低下を見込んでおります。

これは上期では、8月、9月の秋物販売不振による在庫処分が発生することを見込んでいること、昨年はヒートテックの販売が非常に好調で限定販売が計画通りに出来なかったことが粗利益率改善に寄与いたしましたが、今年は通常程度の水準となることを見込んでいること、また、昨年の第2四半期では売上の上ぶれに伴い一部商品についてスポットの為替で仕入れたことによる円高メリットが発生したことによります。

下期については、素材価格や加工賃の上昇により原価が若干上昇することを見込んでおります。

売上高販管費率は、旧基準と比較すると、上期は前年同期比2.3ポイントの上昇、下期は1.9ポイント低下、通期では0.8ポイントの上昇を見込んでおります。

アジアの拡大により売上高1,000億円規模へ アジア 通期で42店舗増、順調に業績規模を拡大

(アジア 店舗数 2010/8末 118店舗 ⇒ 2011/8末(予想) 160店舗)

中国・香港 店舗数は24店舗増、既存店二桁増収で、大幅な増収増益を予想

韓国 店舗数は14店舗増、大幅な増収増益を予想

シンガポール 2店舗の出店により順調に業績を拡大

台湾 10月7日に1号店をオープン、初年度黒字を見込む

マレーシア 11月4日に1号店をオープン予定、初年度黒字を見込む

		2010年8月期		2011年8月期	
		通期実績	通期予想	前期比	
海外ユニクロ事業	売上高	727	1,000	+37.4%	
	営業損益	63	85	+33.2%	
	(売上比)	8.7%	8.5%	▲0.2p	

単位: 億円

23

次に、海外ユニクロ事業の通期予想ですが、アジアでは引き続き、積極的な出店を続ける計画で、海外ユニクロ事業の売上高は前期比37.4%増、1,000億円の規模に達することを予想しております。
また、営業利益は85億円、前期比33.2%増を予想しております。

ニューヨーク5番街のグローバル旗艦店は、2011年秋の出店に向けて準備を進めておりますが、今期はその家賃や販促費といったオープン前経費が約30億円見込まれております。この先行費用を除くと、今期の海外ユニクロ事業の営業利益は実質的には約8割増益が見込まれております。

今期もアジアでは積極的な出店を進め、店舗数は前期末の118店舗から160店舗へと大きく増やす計画です。内訳としては中国・香港の出店が一番多く、24店舗の増加、次に出店数が多いのが韓国で14店舗の増加を計画しています。

中国では出店増に加え、2010年5月にオープンした上海旗艦店の寄与、既存店売上高が二桁増収と好調に推移することを予想しており、大幅な増収増益を見込んでおります。

韓国でも14店舗の増加と、堅調な既存店増収が続くことを予想しており、大幅な増収増益を予想しております。
シンガポールでは今期は2店舗の出店を予定しており、順調に業績は拡大する見込みです。

なお、昨日10月7日に台湾における1号店をオープンいたしました。
また、来月4日にはマレーシアにおける1号店のオープンを予定しております。これらの新規の出店地ではすでにユニクロの知名度も高いことから、初年度の黒字を見込んでおります。

欧米 ニューヨーク5番街グローバル旗艦店の オープン前経費が発生

(欧米 店舗数 2010/8末 18店舗 ⇒ 2011/8末 20店舗)

米国 ソーホーのニューヨーク グローバル旗艦店の二桁増収を予想
ニューヨーク5番街店舗のオープン前経費を除いた実質ベース
では大幅増益

英国 2店舗の出店を予定
通期で営業黒字を予想

フランス パリのグローバル旗艦店(パリ オペラ店)の好調続く
増収増益を予想

ロシア 2店舗の出店を予定
新店オープンコストを吸収して営業黒字を目指す

米国ユニクロ事業は、ソーホーのグローバル旗艦店の二桁増収が続く見込みです。ニューヨーク5番街の店舗のオープン前経費を除いた、実質ベースでは大幅な増益を予想しております。

英国では今期は2店舗の出店を予定しております。既存店の増収によって、通期で営業黒字を達成することを予想しています。

フランスでは、パリのグローバル旗艦店「パリ オペラ店」が引き続き好調な売上げトレンドを維持していることから、増収増益を見込んでおります。

ロシアでは今期は2店舗の出店を予定しており、新店のオープンコストを吸収して、通期で営業黒字を目指しております。



【グローバルブランド事業】2011年8月期 業績予想

営業利益の増益を予想

セオリー事業 米国好調で増益を予想

米国：既存店増収、卸売部門も順調で、増益の見込み

日本：既存店売上高横ばい、営業利益は前年並みを見込む

コントワー・デ・コトニエ事業 増収増益を予想

既存店増収を予想、経費削減や粗利益率の改善などの効率化により増益を予想

プリンセス タム・タム事業 経費削減で増益

卸売事業縮小により減収だが、経費削減で増益を予想

ジュー事業 大量の出店を継続、増収増益の予想

37店舗増を予定、増収増益を達成する見込み

		2010年8月期	2011年8月期		単位：億円
		通期実績	通期予想	前期比	
グローバルブランド事業	売上高	1,252	1,250	▲0.2%	
	営業損益	78	85	+8.3%	
	(売上比)	6.3%	6.8%	+0.5p	

※ 2010年8月期実績については新カテゴリーに組替した数値を表示しております。

25

グローバルブランド事業の売上高は1250億円と0.2%の減収、営業利益は85億円と8.3%の増益を予想しております。

若干の減収となる要因は、2010年8月期に米国のセオリー事業の業績を14ヶ月連結した影響と、キャビン事業で展開するブランドを2011年初頭を目途に休止するためです。

セオリー事業につきましては、米国のセオリー事業で既存店売上高の増収が続くこと、また卸売部門も順調なことから、増収増益を見込んでいます。

日本のセオリー事業は、既存店売上高の横ばいを予想し、営業利益は前年並みを見込んでおります。

今後のキャビン店舗につきましては、グループ内の他ブランドへの転換を検討しておりますが、詳細に付きましてはまだ決定しておりません。

コントワー・デ・コトニエ事業は既存店増収を予想しており、また、経費削減や粗利益率の改善などの効率化を図ることで増益を予想しております。

プリンセス タム・タム事業は卸売事業の縮小により減収の予想ですが、経費削減効果により増益を予想しております。

ジュー事業は、37店舗の店舗増を予定しており、増収増益となる見込みです。

特別損失 ▲120億円
会計処理の変更に伴う特別損失
物流費一括償却 ▲30億円

物流費・商品倉庫料の計上基準を統一したことに伴い、2010年8月末時点の在庫に含まれる物流費・商品倉庫料の相当額を一括償却

固定資産の減価償却費一括償却 ▲45億円

固定資産の減価償却費計上基準をグループで統一したことに伴い、過去分を一括償却

資産除去債務過去分一括償却 ▲35億円

資産除却債務会計基準の適用に伴い、過去分を一括償却

その他の特別損失
固定資産除却損・店舗閉店損失 ▲10億円

主に国内ユニクロ事業の店舗閉店に伴うもの

2011年8月期における特別損失は120億円を予想しております。

このうち110億円が会計処理の変更に伴う特別損失となります。

まずは、物流費・商品倉庫料の計上基準を統一したことに伴い、2010年8月末時点の在庫に含まれる物流費、商品倉庫料の相当額を一括償却することで30億円の特別損失を見込んでおります。

次に、固定資産の減価償却費計上基準をグループで統一したことに伴い、過去分を一括償却することで45億円を見込んでおります、

また、資産除却債務会計基準の適用に伴い、過去分を一括償却することで35億円を見込んでおります。

【配当金】

2010年8月期 年間配当金 230円を見込
2011年8月期 年間配当金 170円を予定

	配当金額(1株当り通期)		
	中間	期末	通期
2009年8月期	75円	85円	160円
2010年8月期 ^{※1}	115円	115円	230円
2011年8月期(予) ^{※2}	85円	85円	170円

※1 2010年8月期末配当金は、2010年11月8日開催予定の当社取締役会での決議を前提としています。

※2 業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、配当金額を変更することがあります。

最後に、年間配当金についてご説明させていただきます。

2010年8月期の期末配当金は1株当たり115円を含み、
年間で230円を見込んでおります。

2011年8月期の配当金につきましては、中間配当金85円、期末配当金85円
を合わせまして、年間配当金は170円を予定しております。

以上で、私からのご説明を終わります。

ありがとうございました。

適用為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2009年8月期 通期(12ヶ月平均)	96.1	130.2	150.0	14.4	7.3
2010年8月期 通期(12ヶ月平均)	89.8	122.1	140.2	13.2	7.7
2011年8月期 通期予想レート	85.0	110.0	130.0	13.0	8.0

設備投資 減価償却費 のれん償却額

単位：億円

	設備投資	減価償却費	のれん償却額
2009年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	140	69	43
2010年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	280	122	75
2011年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	280	150	70

【連結】2011年8月期 中間期業績予想

単位：億円

	2010年8月期	2011年8月期	
	中間期実績	中間期予想	前年同期比
売上高 (売上比)	4,709 100.0%	4,730 100.0%	+0.4%
売上総利益 (売上比)	2,463 52.3%	2,415 51.1%	▲2.0% (▲1.2p)
販管費 (売上比)	1,464 31.1%	1,700 35.9%	+16.1% (+4.8p)
営業利益 (売上比)	998 21.2%	715 15.1%	▲28.4% (▲6.1p)
経常利益 (売上比)	965 20.5%	690 14.6%	▲28.5% (▲5.9p)
当期利益 (売上比)	553 11.8%	300 6.3%	▲45.8% (▲5.4p)



<ご参考>

【国内ユニクロ】2011年8月期 中間期業績予想

単位：億円

	2010年8月期		2011年8月期	
	中間期実績		中間期予想	前年同期比
売上高 (売上比)	3,669 100.0%		3,540 100.0%	▲3.5%
売上総利益 (売上比)	1,847 50.4%		1,735 49.0%	▲6.1% ▲1.3p
販管費 (売上比)	923 25.2%		1,075 30.4%	+16.4% +5.2p
営業利益 (売上比)	924 25.2%		660 18.6%	▲28.6% ▲6.5p

※ 2010年8月期実績については新カテゴリーに組替した数値を表示しております。

※ 株式会社ユニクロ(靴事業含む)の数値が表示されています。

連結対象会社別出退店 実績・予想

【単位:店舗】	09年8月	2010年8月期末			2011年8月期末 予想				
	期末	出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	862	124	42	+82	944	107	27	+80	1,024
国内ユニクロ事業:	770	78	40	+38	808	60	24	+36	844
直営店	750	77	39	+38	788	60	24	+36	824
大型店	71	33	2	+31	102	30	0	+30	132
標準店等	679	44	37	+7	686	30	24	+6	692
FC	20	1	1	+0	20	0	0	0	20
海外ユニクロ事業:	92	46	2	+44	136	47	3	+44	180
中国(除く香港)	33	23	2	+21	54	23	1	+22	76
香港	11	2	0	+2	13	2	0	+2	15
台湾	-	0	0	0	-	1	0	+1	1
韓国	30	18	0	+18	48	14	0	+14	62
シンガポール	2	1	0	+1	3	2	0	+2	5
マレーシア	-	0	0	0	-	1	0	+1	1
英国	14	0	0	0	14	2	2	0	14
米国	1	0	0	0	1	0	0	0	1
フランス	1	1	0	+1	2	0	0	0	2
ロシア	-	1	0	+1	1	2	0	+2	3
靴事業	279	0	189	▲189	90	0	1	▲1	89
ジュー事業	72	47	4	+43	115	40	3	+37	152
キャビン事業	205	15	23	▲8	197	0	197	▲197	0
セオリー事業	306	50	30	+20	326	61	10	+51	377
コントワー・デ・コトニエ事業	368	18	15	+3	371	43	6	+37	408
プリンセス タム・タム事業	166	2	8	▲6	160	2	6	▲4	156
総 合 計	2,258	256	311	▲55	2,203	253	250	+3	2,206

※ 2011年8月期の
出退店予想には、
キャビン事業の
店舗転換分は
含んでおりません。